



# 就職応援セミナー

## 特別講師

# 錦織 圭選手

プロテニスの世界的プレーヤーで、リオデジャネイロ五輪銅メダルの錦織圭選手(26)が9月20日、中央大学後楽園キャンパスにやってきた。契約スポンサーによる企画「就活生応援セミナー」の特別講師だ。



就活生を激励した錦織選手



就活生に経験談を話した

同セミナーは錦織選手に栄養補給のゼリー飲料を提供している森永製菓が企画。会場には「inゼリー 錦織圭選手 就活生セミナー」と大書された。

受講席を埋めた中大生は約100人、いずれも就職活動を控えた3年生。就活生たちは想像もしていなかったスター選手による就活支援に大感激。

錦織選手は「学生の方と話すことはあまりないので、すごく新鮮な気持ちです」と切り出し、今回テーマの『大事な場面での、負けない自分づくり』について話し始めた。

「常にポジティブな気持ちを持つこと。大きな夢、目標がしっかりあれば、そこに向かうには楽しいことも、つらいことも同じくらいあります。ポジティブな気持ちでいれば乗り越えられる」

強い気持ちは少年時代に養われた。大先輩の松岡修造氏(48) = ウィンブルドンテニス、62年ぶりのベスト8進出 = が主宰する合宿に参加。「いきなり人前で英語を話せとか、いろいろやらされて泣かされることもありました。メンタルを鍛えられた。感謝しています」と振り返り、次に就活生を勇気づけた。

「僕も落ち込むことがあります。世界1位、2位の選手や誰だって、それぞれの位置で悩む。落ち込まず、悩まない人はこの世にいないと思います」

「目標に向かって、こうなりたい、強くなりたいと思うことで、つらいことも乗り換えられる」

質問コーナーでは、就活生が登壇し、こう尋ねた。

Q 「理工学部的女子学生です。大勢の人に見られるのが苦手です。面接などで緊張を解く方法を教えてください」

A 「僕も人と話すことは最高に苦手でした。自分が就職活動をするとしても、テニスしか得意なことがないので(試験には)落ちてしまう、ここは自信があります。人前で話すのをチャンスと試してみたら。僕も慣れてきて、今は苦ではありません」

イベント終了後のマスコミ対応では、自らの学生生活に触れた。

13歳で親元を離れ、米国へテニス留学。慣れない環境下、練習に明け暮れる毎日。「一人でする勉強が、いい息抜きになった面もありました」と話し、この日の就活生へ「これからの日本を背負っていく学生の方には勢いがある」とエールを送った。

## 本誌記事を英文にして、世界へ発信中

Hakumon Chuo・英語記事のページには、下記の手順で進んでください

- ① 中大公式ページ (日本語) を開く  
<http://www.chuo-u.ac.jp/>
- ② 右側にある ChuoOnline のバナーをクリック
- ③ ChuoOnline のページへ  
<http://www.yomiuri.co.jp/adv/chuo/research/20151112.html>
- ④ 右上 English をクリック
- ⑤ ChuoOnline の英語サイトへ  
<http://www.yomiuri.co.jp/adv/chuo/dy/>
- ⑥ 右の目次から HakumonChuo をクリック
- ⑦ Hakumon Chuo 英語ページへ  
<http://www.yomiuri.co.jp/adv/chuo/dy/hakumon/>

### HakumonChuo 英語記事掲載ページの見かた

- ① 中大公式ページから ChuoOnline をクリック



- ② ChuoOnline のページから English をクリック



- ③ ChuoOnline 英語ページから HakumonChuo をクリック



- ④ HakumonChuo 英語の記事はこちらからご覧いただけます。ブックマークに追加していただくと、次回から楽に開けます。



最新号の英訳記事

# 取材を終えて

## 経験の大切さ

学生記者 中村亮士（商学部4年）

ピンチのときの心構えについて聞かれ、錦織選手はこう答えた。

「自信を持つことが一番大事。楽しいことやつらいことを経験することで、自信につながる」

自信を持つために必要なのは、経験だという。

印象的だったコメントがある。将来有望な日本人若手選手の印象について聞かれた場面だ。全米オープンテニス・ジュニアで4強入りした18歳の綿貫陽介選手を「まだまだ全然怖い存在ではない」と突き放した。

会場は笑いに包まれた、それを狙って発言したのかもしれない。だがこの言葉には、たくさんの経験を積んでつかんだ強い自信が、ユーモアに包まれているように感じた。

私は来年度から社会人となる。楽しいことと同時に、辛いことも多く経験するだろう。でも、厳しい世界で生き抜くためには経験は不可欠だと今回学んだ。

これから一つひとつの経験を大切に、どんな場面でも乗り越えられる自信を身につけ、社会で活躍できる人間になろう。

## 二面性の魅力

学生記者 山田俊輔（法学部4年）

司会の声に従って、錦織圭選手が颯爽と登場した。

その姿はいつもの試合着ではなく、ビシッと着こなしたスーツ姿。何度か「楽天ジャパンオープン」を見たことがあったので、ナマ錦織が初めてというわけではない。しかし、コートで「カモン!!」と叫ぶ彼とは、だいぶ違う印象を受けた。

就活生や司会者の質問に「テニス以外のことはよくわかりませんが…」と、いつもの思い切りの良さを封印しながら話した日本のエース。テニスの話となると一転して、自信に満ちた言葉で語る。

その二面性が魅力的だった。真っ直ぐなエースがくるのか、裏をかいたドロップがくるのか、全く読めない。初めは慎重に話している様子だったが、後半は会場を笑いに包むことも多々あった。スロースターターの錦織選手らしい展開だ。

トークでも観客を魅了した。リオ五輪テニスで日本に96年ぶりのメダルをもたらした。全米オープン4強と好成績を残す。

世界を戦う上で大切なのは「経験と練習」と言った。

就活の成功は「経験と練習」のライン上にある。



## 今回のテーマ

『大事な場面での、



入場時、就活生から大歓迎を受けてびっくり

## 硬軟自在のパワー

学生記者 高瀬杏菜（法学部4年）

取材陣も驚くほどの歓声上がる。錦織選手の登場だ。キラキラ輝いているスター選手を目の前にして不思議な感じがした。〈おかしい、何かが違うぞ…〉

疑問はしばらく経ってから解消された。スーツを着ていたのだ。普段、私たちが見るのはテニスウェア。ここに違和感を覚えたのだった。

会場内パネルの最上段には『大事な場面での、負けない自分づくりに』と書かれている。〈これからどんな難しいことをお話されるのだろうか〉と身構えた私。錦織選手が話すたびに会場の空気は柔らかく、温かくなった。

緊張しながら質問した就活生に対して、「教科書みたいな質問」だと言って、自ら笑いながら学生の緊張をほぐしてしまう、その人柄に感動した。

「日本一熱い男」とも言われる松岡修造さんの下で心身を鍛えてきた。世界を意識することや、勝利への執着は「修造チャレンジ」で学んだそうだ。苦手だった人前で話すことも、ここで克服したという。

この日のように、同じ場にいるだけで周りを笑顔にさせる魅力がある。一方で、この取材からおおよそ2週間後の試合「楽天ジャパンオープン」では、テレビを通して、力強いプレーをする姿を見ることができた。

この、硬軟自在のパワーがあるからこそ、錦織選手は強いと実感した。

## 経験を自信に

学生記者 内藤伊音（商学部2年）

錦織圭選手—といえば今や日本人に限らず世界中の人々が知るトップアスリートである。今夏のリオ五輪テニスでは、日本に96年ぶりのメダルをもたらした。

目の前に現れたときの威圧感はどうなものだろうか…とっていた私。会場でのやりとりを聞いて、この人も同じ人間なのだな、と感じた。

マスコミ取材の質問を次々にさばっていく一方で、「人前で話すことは苦手だったんです」と打ち明けた。就活生からの思いも寄らない質問には戸惑いの表情を見せた。

インタビューの答えには、何度も「経験」という言葉が出てきた。

ピンチのとき、ネガティブな気持ちになってしまいそうなき、緊張する場面するとき。

乗り越えてきた試練や日頃の練習、努力を「経験」としてとらえる。それを思い出すことで「自信」に変え、それぞれの場面で立ち向かっていたという。

どんな試合でも堂々としたプレーができるのは、積み重ねてきた経験そのものに自信があるからなのか、と深く納得させられた。

トップアスリートに見習って、私も自信に変えられるような経験をたくさん積んでいきたい。

# 負けない自分づくり』